

2023 年度第1回 k-unet デジカメ写真撮影講習会の模様

～ 渋沢栄一史料館(新一万円札発行記念 渋沢栄一肖像展)見学と撮影会 ～

実施日時: 2023 年 11 月 11 日(土) 10:30～15:00

撮影講習会の場所: JR 京浜東北線 王寺駅南口徒歩 5 分 飛鳥山公園

講師:元NHK文化センター講師 高原直哉 氏

参加者:14名

2023 年度第 1 回 k-unet 写真撮影講習会を開催しました。11 月 11 日(土)10 時 30 分に JR 京浜東北線王子駅中央改札口前に集合。

最初に渋沢栄一史料館で渋沢栄一肖像展を見学しました。

(2024 年発行の新一万円札の顔は渋沢栄一です、なお孫の敬三は国際電信電話(現KDDI)の初代社長です)

見学後 飛鳥山公園(日本初めての公園、晩香蘆、青淵文庫国指定重要文化財が見学できます)を散策しながら写真撮影会を実施、撮影会終了後、王子駅最寄りのレストランで昼食懇談会を実施しました。

曇り空の寒い1日でした。また当日は渋沢栄一の御命日で、肖像展見学は無料でした。

参加者は(一般9名 運営委員3名 担当石垣 外部講師 高原直哉氏)計14名でした。

飛鳥山公園を散策しながら、講師の指導をうけながら、参加者は思い思い写真撮影をしました。一部の参加者はPCアートコンテストにも応募されました。

講師のワンポイントレッスン

- 見せたいところを決めピントをきちんと合わせる
- 曇り空の撮影は空をいれない
- 逆光をとれ! 光を意識しよう
- 露出(写真の明るさ)を使い分ける
- ハイライト(写真の明るい部分)に気をつける
- シャドウ(影)をとる

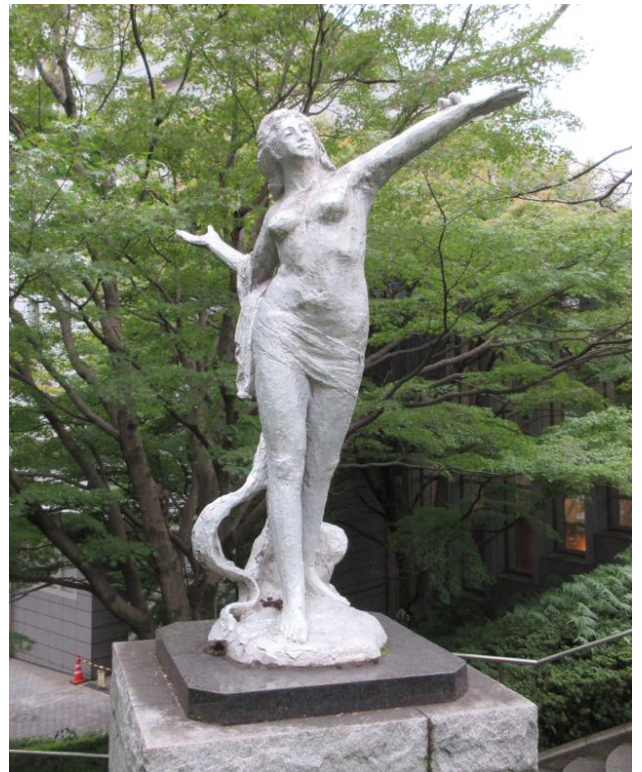
渋沢栄一とは

1840 年、現在の埼玉県深谷市に生まれました。
農業・商業を営む実家を手伝うかたわら、尊王攘夷思想に傾倒しましたが、縁あって一橋慶喜の知遇を得て家臣となりました。

1867 年パリ万博で文明に触れ、感銘を受けました。
帰国してからはその経験を活かし、民間の立場から約 500 社にのぼる株式会社、銀行などの設立、経営指導に尽力し、民間経済外交、社会公共事業に取り組み近代日本の経済社会の基礎を作りました。



渋沢栄一肖像展



渋沢敬三(国際電信電話初代社長)

お札の肖像彫刻と印刷

お札の肖像

日本のお札に肖像が採用されたのは、明治14(1881)年に発行された20銭紙幣1円が初版である。これは、当時の海外の銀行券を参考としたもので、偽造防止が目的であった。肖像の鑑別が少しでも違ふとその価値自体が変わって見えることから、複製にお札の真偽判別ができるとして、お札のデザインに用いられたのである。

現在、お札の肖像には、文化人と呼ばれる文学、科学など様々な分野で業績を挙げた、日本が世界に誇れる人物が選定されている。



(複製) 明治14(1881)年発行の20銭紙幣1円(中央銀行発行)
肖像: 明治14(1881)年発行の20銭紙幣1円(中央銀行発行)

お札の肖像彫刻(エンレーヴィング)

お札の肖像は、金属製(ビュランと呼ばれる彫刻刀で銅や鉛を薄く削り込む)エンレーヴィング(彫刻)という技術で彫刻されている。エンレーヴィングは、活字印刷の専門職である工芸者が148名に継承してきた伝統的な技術であり、1mm幅に10本以上の線が彫刻できるほどの細かさである。極めて精密な作業を要するため、容易に複製できないことからお札の偽造防止に有効な技術となっている。

なお、銅版画は、肖像彫刻の際に彫刻師の構成の参考とするために写真を用いて明確につけて置かれるものである。

お札の印刷技術(凹版印刷)

エンレーヴィングで彫刻された肖像画は、凹版印刷という特殊な方式で印刷される。凹版印刷は、彫刻された線の溝に粘性のあるインキを詰め、強い圧力で紙にインキを押し取る方法(左図)である。押し取られたインキが画線の深さの分だけ盛り上がるのが凹版印刷の特徴であり、このインキの盛り上がりは複写機では再現できないため、偽造防止効果を有するとともに、さらさらした手触りは真偽判別にも役立つ。



凹版印刷

【作成】独立行政法人国立印刷局 札と切手の博物館

An admirer of Confucius, Katozo developed a keen interest in biology and aspired to become a biologist, but upon Eiichi's request Katozo instead was groomed to become Eiichi's heir.



1. 敬三の幼少



2. 養父の絵



